

日時 9月25日(月)午後6:30~8:00

場所 オンライン開催

参加者 4名

村山元理「**海外におけるパーパスの展開と経営学**」

内容：日本マネジメント学会第88回全国大会での統一論題報告の予行練習を30分ほど行う。パーパスに関連した経営関連の最近の研究を紹介した。村山(2022)の後、TCBのPurpose報告書、経営学、経営史学との関連など。

添付資料：予稿集のレジュメ「**海外におけるパーパスの展開と経営学**」

望月：多忙の中で、ストレスがなく、面白かった。MSRは心理学とも関係している。MSRが求めるGlobal consciousnessに関心をもった。

本井：日本企業では、パーパス策定が一巡した。ビジョンを策定する会社もある。トヨタはパーパスを策定していない。ガバナンスでの取り組みが課題である。

青木：テーマと内容が違う気がする。パーパスに関する先行研究のレビューがなく、会員から聞いた情報を紹介していたが、本当に経営者が初めて書いたものであるのかについては疑問が残る。パーパスやビジョンなどの用語について整理し、定義づける必要がある。内容があちらこちらに広げすぎているので何に焦点をあてて、何について考察したいのかがわかりにくいのもっと村山先生の専門に特化したほうがよいと思う。そのうえで海外の事例を取り上げる必要があると思う。日本マネジメント学会で発表すると聞いていたが、今回の発表した内容には知見がなかったので昨年度、経営行動研究学会に参加された厚東先生によれば、ブームに乗っかるのではなく、ステークホルダーについても意味を掘り下げて研究する必要があると指摘していたことを伝えた。今回のような発表を厚東先生が聞いていたら、批判が殺到するであろう、ということも伝えた。(青木氏の文責)

村山：確かに勉強不足で、今回は途中経過の概要紹介に過ぎない。ジョルティ著の

『Heart of Business』は、山本毅氏の紹介であり、著書は、訳者によれば、「経営者自らがパーパスの重要性を語った最初の本」矢野陽一朗(グラムコ社長)」とされていることに青木氏は疑義を唱えられた。ジョルティは、マッケンジーのコンサルタントであり、フランスのエリート大学出身でもあり、ベストバイ再建の単なる体験話はなく、哲学、統計方面の引用が多く、学問的にも高いレベルにあることだけは言える。noble purposeを経

営者の原則にすることを目的として書かれていて、ハーバードの客員研究員として招聘されていることを敷衍する。当日の発表では、矢野陽一郎氏の最初の本であるか否かについては言及しないこととする。

理論的貢献として、著名な2人の経営者、ティール組織には、スピリチュアリティとの関係があることを評価したい。その際、MSR研究の総括論文を引用したい。またヒストリアンの Jones のスピリチュアリティの定義も狭いことを指摘したい。

次回 毎月 第4月曜日

令和5年10月23日（月）午後6時半～8：00

発表予定：青木崇